

基本理念と施策の体系について(案)

1. 仙台市水道事業の現状と課題

【水需要】

1. 減少傾向にある水需要と料金収入
2. 今後とも減少が見込まれる水需要を踏まえた事業運営の必要性

【水源・水質】

1. 安全で良質な水道水の基本となる水源保全の必要性
2. 水源から蛇口に至る水質管理・危機管理体制強化の必要性

【水道施設】

1. 増加する水道施設の更新需要と計画的な対応の必要性
2. 水需要に見合った施設規模と水道システムの再構築を視野に入れた検討の必要性

【災害対策】

1. 発生確率が高まっている宮城県沖地震への対応の必要性
2. 水運用機能の強化や水道施設の耐震化といった事前対策の必要性
3. 応急給水や応急復旧体制といった事後対策の必要性

【お客さまサービス】

1. お客さまの利便性の向上に資する施策の検討の必要性
2. 広報と広聴の充実の必要性
3. お客さまとの協働に基づく取り組みの必要性

【環境】

1. 地球環境問題への積極的な対応の必要性
2. さらなる環境負荷の低減活動に向けた取り組みの必要性

【経営】

1. さらなる事業運営の効率化と財務体質の強化の必要性
2. 水需要の減少や増加する施設の更新需要を踏まえた料金制度の検討の必要性
3. 人材育成・技術継承や民間活力の有効活用など、将来にわたって安定した事業運営が可能となる基盤づくりの必要性

【新たな課題】

1. 広域化・広域連携という視点での取り組みの必要性
2. 国際貢献という視点での取り組みの必要性

2. 基本理念について

仙台市水道事業は、大正12年（1923年）の給水開始以来、「杜の都・仙台」の健康的で快適な市民生活はもとより、東北の中核都市としての都市機能、産業活動を支える重要なライフラインとしての役割を果たしてきました。

仙台市水道事業の現状と課題などからも分かるように、私どもの事業を取り巻く環境は大きく変化してきており、拡張の時代から本格的な維持管理・更新の時代へという時代の大きな転換期を迎えていると言えます。

水需要の減少が続く中で、これまでの拡張事業期に集中的に整備してきた施設の更新や、宮城県沖地震などの災害に備えた耐震化などの取り組みを強化していく必要があるほか、多様化するお客さまニーズや環境問題への対応なども求められています。

*

このような厳しさを増す経営環境の中においても、安全で安心な水道水を安定的にお届けしていくことを、水道事業者としての根本的な使命であると捉え、様々な経営課題に的確に対応していくとともに、これまで築き上げてきた水道事業を次の世代に引き継ぎ、将来にわたってこの使命を果たすための経営基盤を継続的に確立していく必要があります。

*

これからの仙台市水道事業の目指すべき方向性は、「杜の都」の未来を支え、お客さまから信頼されるライフラインとして、今後とも安全で安心な水道水を安定的に供給するとともに、東北の水道界を牽引していく気概で、事業運営にあたっていくことです。また、今後さらに厳しさが増す事業環境の変化を、むしろ事業の質的な向上を図るチャンスと捉え、より一層挑戦する姿勢で事業運営にあたり、その成果を経営基盤の強化という形で将来世代へ引き継いでいくことです。

*

こうした認識のもと、平成22年度からの新たな基本計画においては、次のような基本理念を掲げ、その理念のもと、今後10年間にわたる施策の方向性として6つの柱を立て、事業運営にあたっていきます。

「杜の都」の未来を支え続ける、安定と信頼の仙台市水道事業

3. 施策の体系について

仙台市水道事業が直面する課題に対応し、「『杜の都』の未来を支え続ける、安定と信頼の仙台市水道事業」という基本理念のもと、優先的・重点的に取り組んでいく「施策の基本的方向性」とそれに基づく「施策」を次に掲げます。

